



最上地区が  
一体となって  
進める

# 魅力ある 学校づくり



今日、来ている子どもたちが  
「明日もまた来たいくなる」ような  
「魅力ある学校」をつくる



## 「魅力ある学校づくり調査研究事業」の取組が必要な理由とは？

これまで最上地区では、先生方が児童生徒一人ひとりを大切に見守りながら生徒指導に取り組んできました。不登校児童生徒に対しても、傾向があらわれた段階から教育相談や家庭訪問、SC・教育相談員・教育委員会と連携したケース会議の実施等、丁寧かつ適切な対応をさせていただいております。

しかしながら、最上地区の不登校児童生徒数は、全国と同様に近年増加傾向にあり、特に中学校1年生での新規不登校生徒が目立つ等、喫緊の課題として捉えております。

そこで、平成29・30年度に「魅力ある学校づくり調査研究事業」の委嘱を受けて研究を進めてきました。さらに、令和元年度に再度委託を受け、不登校の未然防止の取組を実践・検証、改善していくPDCAサイクルを学校全体で進め、不登校児童生徒の新規数抑制を目指してきました。

山形県教育庁最上教育事務所



# 「魅力ある学校」とは

児童生徒の声を生かして進める  
新規不登校を生まない「未然防止」の取組

すべての児童生徒の **教職員が主導**  
「心の居場所」となる学校

教職員の役割は  
【安全安心な学校づくり】

教職員が、児童生徒にとって安心できる場所、自己存在感や充実感を感じられる場所を提供する。

すべての児童生徒の **児童生徒が主体**  
「絆づくりの場」となる学校

教職員の役割は  
【場と機会の設定】

児童生徒が、主体的・協働的に取り組む活動を通し、自らが「絆」を感じ取り、紡いでいく機会を設ける。

## 魅力ある学校

- あらゆる教育活動で「居場所づくり」「絆づくり」に取り組む！
- PDCAサイクルを年3回(7月・12月・3月)回す！

- ① 実態把握：「子どもの声調査」の実施
- ② 課題分析・目標設定・行動計画：「チーム学校プラン」の作成
- ③ 実行：「チーム学校プラン」に基づき、全職員で目標を意識し、共通実践
- ④ 調査：「子どもの声調査」の実施
- ⑤ 点検・見直し・行動計画改善：調査結果を分析し、「チーム学校プラン」を改善



# 「モデル校区(舟形小学校・舟形中学校)」の取組

## 舟形小学校

教師指導の「居場所づくり」と児童主体の「絆づくり」のバランスの秀逸さ

**目標** 「ア 学校が楽しい」の項目について、「当てはまる」の割合を下学年80%以上、上学年70%以上にする。

**活動名** 「ONEチーム大作戦」

**ねらい** 学校・児童会のスローガンである「挑戦」について、各学年・学級や児童会全体で具体的な取組を企画し、学校生活をより良くする。



「あいさつが響き合う学校」「自分からあいさつする舟形小」を目指して！

**内容** 1 「あいさつクラスマッチ」(運営委員会を中心とした児童会の取組)

- クラス代表2名が運営委員と共にあいさつ運動に参加し、良かった点や改善点をクラスに持ち帰って話し合い、次の日からの「あいさつ」に生かす。また、クラスで話し合った結果を運営委員会に報告したりすることで学校全体の「あいさつ」を改善する。

2 言われてうれしかった言葉や友達のいいところ紹介

- 学校生活をより良くするために、お互いの良さを認め合う機会を増やす学級の取組である。

4年生：「笑顔タイム」(笑顔になったことやうれしかった言葉を伝える)

5年生：「5年1組の木」(友達の頑張っているところや友達にありがとうを伝える)

6年生：「いいところ発表週間」(友達の頑張りを認め合う)



**目標** 「エ 授業がよくわかる」の項目について、「当てはまる」の割合を各学年80%以上にする。

**活動名** 学び合いでつくる「魅力ある学校」～生徒と共に～

**ねらい** 事後研修会に数名の生徒を参加させ、生徒から見た「授業の学び」を生徒自身が語る場を設けることで授業改善に役立て、「魅力ある授業」「魅力ある学校」づくりにつなげる。

### 【生徒の声を聞いた教師の感想】

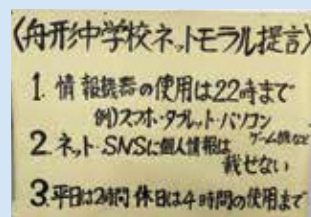
教師は、グループに入って安易に「(他の人に)教えてあげて～」と言うのではなく、生徒一人ひとりにも、それぞれタイミングがあること。そんなことに改めて気付かされた事後研修会だった。



## 小中連携の取組 ～魅力創生サミット～

- 目標**
- 1 小中連携を通して、児童生徒が自分たちで「魅力的な学校をつくる」という意識を持ち、具体的な取組を考え共有し、実践すること。
  - 2 小・中学校の各代表が意見交換等を行うことより、児童が安心して中学校へ進学できるようにすること。

- 次第**
- 1 開会宣言
  - 2 中学校代表挨拶
  - 3 「魅力ある学校」に近づけるための取組紹介



(1)「魅力」のイメージの共有、中学校の取組紹介

### 「ネットモラル提言」について

- 1 情報機器の使用は22時まで  
例) スマホ・タブレット・パソコン・ゲーム機など
- 2 ネット・SNSに個人情報は載せない
- 3 平日は2時間、休日は4時間の使用まで



(2)小学校の取組紹介

### 「ONE TEAM大作戦」「いい言葉を増やして、悪い言葉を減らそう大作戦」(1月)

- 1 週目：ハートの付箋に今まで言われたうれしいこと等を書いて展示ホールに全校児童で掲示する。
- 2 週目以降：帰りの会で「今日のいい言葉」等を調査して記入し、1週間が終わる度に掲示していく。

※活動を通して、「いい言葉」を意識することで、いじめの未然防止を目指す。

4 意見交換・ワークショップ(4人グループ)

【テーマ】安全にメディアと関わっていくにはどうすればいいか？

- (1)現状に対する課題を挙げる。(各自付箋に記入)
- (2)挙げた課題をグルーピングする。(グループ内で課題を整理)
- (3)グループ内で課題に対する解決策を考える。
- (4)決まった解決策を全体に発表する。

5 最上教育事務所エリアスクールソーシャルワーカーからの話

6 閉会宣言





## 新庄市立明倫中学校

目標：ア 「学校が楽しい」

**目標** 「当てはまる」の割合を全学年向上させる。

**活動名** 「心の集い」

**内容** 1 異学年交流による話し合い活動  
2 全校合唱(いのちを深く考える日)  
3 明倫中を見守ってくださっている方の語り(いのちを深く考える日)など

**【活動の詳細】**

- 学年縦割りで5、6人(各学年2名程度ずつ)のグループを作り、テーマについて話し合う。
- 通常は年間4回(最終回は、いのちを深く考える日)実施(令和2年度は2回)

**【令和2年度のテーマ】**

- ・12月 「ルール・マナー・モラル」
- ・1月 「いのち」を見つめ、「いのち」を語り合う」



異学年交流により  
生徒の絆をつむぐ伝統の実践



## 不登校未然防止のための 各学校の実践

### 金山町立金山中学校

目標：エ 「授業がよくわかる」

**目標** 「当てはまる」の割合を全学年向上させる。

**活動名** 「プレスタディ・タイム」

**内容** 1 終わりの会終了後に「プレスタディ」を10分設定し、帰宅後の家庭学習の見直しを持つ時間として活用する。  
2 学年担任団が一人10～11人の生徒を担当して支援する。(「学びのグループ担当」制)

**活動名** 「スタンバイ学習」

**内容** 授業開始3分前に「スタンバイ学習」として、前時の復習や今日の授業の予習、小テスト等の時間として有効に活用し、基礎的な内容の定着に努める。



**活動名** 「『対話』と『協同』の学び」

**内容** 1 「対話」と「協同」の学習スタイルを活用し、お互いの意見を融合しながら、さらに「新しい考えを導き出せる集団づくり」に努める。  
2 生徒同士がお互いの思いを伝え合い、聴き合い、認め合う「対話的コミュニケーション」が図りやすい空間をつくり、課題を解決できるようにする。

授業を校に一人ひとりの学びを保障した  
不登校の未然防止の取組

## 新庄市立萩野学園

目標：ウ 「授業に主体的に取り組んでいる」

**目標** 「当てはまる」の割合を、5年生は90%以上、8年生は55%以上に引き上げる。

**活動名** 「5・8年生合同総合学習」  
～「泉田さといも」をPRしよう!～

**内容** 1 5年生が授業参観で発表するPR活動の内容について、事前に8年生に発表し、それを受けて8年生が5年生にアドバイスをする。  
2 8年生のアドバイをもとに、5年生が自分たちでPR活動の内容について練り直す。  
3 授業参観当日は、5年生が「泉田さといも」の特徴の紹介と販売を担当し、8年生は自分たちが考えた「泉田さといも」のレシピに基づいて調理したものを保護者に振る舞った。



児童生徒の主体的な学びを促し  
保護者と関わり合いながらつくる「居場所」と「絆」

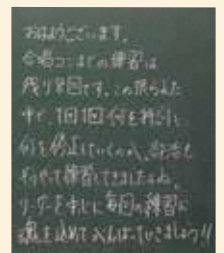
### 最上町立最上中学校

目標：イ 「みんなで何かをするのは楽しい」

**目標** 「当てはまる」の割合を全学年において増やす。

**活動名** 「黒板メッセージ」

**内容** 毎朝、担任の黒板メッセージで生徒を出迎えている。最上中学校の伝統として、継続して行っているものであり行事に向かう気持ちや姿勢、日々の生徒の良かった姿やクイズ等、各担任が個性的なメッセージを送っている。板書の内容が朝の会の話題につながる等、毎朝のメッセージの一つ一つが生徒の登校時のやる気アップを促している。



**活動名** 「生徒の誕生日に贈るほめ言葉」

**内容** 誕生日の生徒にクラスの仲間と保護者の方からの「ほめ言葉」を学級だよりに掲載することで、「居場所づくり」に繋がっている。クラス全員からメッセージをもらうことで、生徒の多様な良さを見ることができたり、生徒自身も自分が今まで気づかなかった長所を知ることができたりする。



全ての生徒が安心して生活できる  
「居場所づくり」の大切さ

## 真室川町立真室川中学校

目標：ア 「学校が楽しい」

**目標** 「当てはまる」の割合を各学年とも上げる。

**活動名** 「学年生徒会を機能させた生活づくり」

**内容** 学年リーダーがお互いをよく知るためのレクリエーションを企画し、学年全員で楽しみながら取り組む。

**活動名** 「コロナ禍の中で人権を考える授業の実践」

**内容** 学校再開時にスクールカウンセラーから講義を受けた。新型コロナウイルス感染症による差別や偏見の未然防止について考えることができた。

**活動名** 「生徒会主催のSNSルールづくり」

**内容** よりよいルールとなるよう、学年オープン縦割り清掃班で現状を確認し、改善のための話し合いを行った。



生徒指導の3機能を生かした  
人間関係づくりの実践

全ての児童生徒を対象に「新規数を抑制する＝新たな不登校を生まない」発想を！  
集団指導は普遍の不登校対策！試行錯誤を繰り返し、「魅力ある学校づくり」の取組を学校文化に！

## 鮭川村立鮭川中学校

目標：エ 「授業がよくわかる」

**目標** 「当てはまる」の割合を、各学年とも上げる。

**活動名** 「チャレンジタイム」

**内容** 月曜日の終わりの会を従来の15分から20分に延長し、一週間分の家庭学習の予定を立てることで見通しを持って家庭学習に取り組めるようにする。

**活動名** 「鮭川中家庭学習スタンダード」

**内容** 「夢をかなえる家庭学習と読書の習慣化」の充実を図る。

**Aメニュー**：一日の授業を振り返る内容(復習)

- ・今日の授業でわかったこと
- ・今日の授業でわからなかったこと
- ・今日の授業で言いたかったこと
- ・「はてな？」についての調べ学習

**Bメニュー**：スキルアップのための繰り返し練習(ドリル)

- ・漢字力アップ ・計算力アップ ・英単語力アップ

**Cメニュー**：明日からの見通しを確かにする内容(予習)

- ・明日の授業の予習と準備 ・明日の学習計画

※各メニューから一つ選択し、読書にも取り組む。



「家庭学習」と「授業」をつなげる  
「居場所づくり」の大切さ

## 大蔵村立大蔵中学校

目標：イ 「みんなで何かをするのは楽しい」

**目標** 「当てはまる」の割合を90%以上にする。

**活動名** 「生徒主体で作上げる運動会」

**内容** 1 「新型コロナウイルス感染症拡大防止」や「熱中症予防」の観点から、生徒が競技を考える。  
→ 教師の力を借りずに各生徒が「想像力」を働かせ、「コロナ禍だからできない」ではなく、「コロナ禍だからこそできる」ことを考え、新しい種目を考案する。  
2 生徒主体の運動会練習の実施  
→ 担当生徒に「競技説明」「綿密な計画」等を意識させ、どのようにすれば生徒の心に届くのかを考えさせる。



主体的に取り組む協働的な活動を通した  
「絆づくり」の推進

## 戸沢村立戸沢中学校

目標：イ 「みんなで何かをするのは楽しい」

**目標** 「当てはまる」の割合を学年目標数値(中1:85%、中2:90%、中3:60%)以上にする。

**活動名** 「児童・生徒会スローガンづくり」

**内容** 小学校1年生から中学校3年生までの全校児童生徒が協力して、児童会・生徒会スローガン看板を制作した。児童生徒と教職員は、一人2枚～4枚のカードに名前や将来の夢などを記入し、記入済みの1,000枚以上のカードを生徒会役員でのり付けし、看板を制作した。

**活動名** 「中学校1年生による中学校入学説明会」の実施

**内容** 今年度は小学校6年生への中学校生活についての説明を中学校1年生が行った。中学校1年生が1年前の自分たちを思い浮かべて、小学校6年生に中学生生活を送る上で心構えやルールなどについて説明した。説明内容は生徒同士でアイデアを出し合い、アンケートを取ったり動画を作成したりして主体的に取り組んだ。



児童生徒を支え、生かし、育てる  
教師の「場づくり」の秀逸さ



# 「のりしろ」(中学校0年生の取組・小学校7年生の取組)とは

**目的** 子ども達の環境が激変する中学校進学に向けて、小中間で継続する力を補強すること



中学校0年生の取組=前倒し的な取組  
=中学校から小学校に伸びるのりしろ



小学校7年生の取組=後ろ倒し的な取組  
=小学校から中学校に伸びるのりしろ

## 最上教育事務所の重点

これまでも「中1ギャップ」解消を目的に小中連携は行われてきたが、これまでの積み重ねていく取組にとどまらず、より効果が得られるように小中連携を進化させていく必要がある。

### 「のりしろ」の例

## 小6のゴールは7月

後ろ倒し的な取組

内容は小学校が主導で提案し、場の設定は中学校が行う!

### 7月 年表発表会

小学校で取り組んできた年表づくりの完成。小学校教員に向けて発表する。

### 6月 各出身小学校主催の学年イベントの実施

出身小学校ごとに集まり、レクリエーション等のイベントの企画・運営を行う。

### 5月 各出身小学校の取組の継続

各小学校で取り組んできたミニレクリエーション等を各学級で朝の会・終わりの会等の時間に継続実施する。

### 4月 運動会での学年種目の企画・運営

各小学校で培ってきた経験を生かし、学年種目や学年応援合戦等の企画・運営を自分たちで行う。

子ども主体で実施!

## 小学校7年生の取組

中学校入学後に、小学校で大切に培ってきた「居場所づくり」の取組等を継続して行ったり、「絆づくり」の取組等を生かしたりすることで、不登校の未然防止等に効果的と考えられる小中連携の取組のこと。小・中学校の先生方が互いに手を組み、アイデアを出しながら取り組んでいく必要がある。

- 小学校生活の取組等を延長する!
- 小学校時代に多くの児童が自信を持って取り組んだ内容を生かす!
- 進学後の不安を弱める!



### 小・中連携

集団全体のアセスメントの引継ぎ・共有等、中1ギャップを小中が手を組むことで乗り越える!

### 3月 部活動体験

小学生が中学校を訪問し、部活動体験や見学等を行う。

### 2月 中1体験発表会

小学生が中学校を訪問し、中学校1年生が総合的な学習の時間で学んだことの発表を聞く。

### 1月 中学校授業体験

中学校教員が小学校を訪問し、出前授業等を行う。

### 12月 中学校入学説明会

中学校側(生徒・教員)が6年生に中学校生活の大まかな流れ等を説明する。

教師主導で計画的に!

## 中学校0年生の取組

中学校入学前の小学校6年生に対し、中学校入学後のイメージ等を持たせるような「居場所づくり」や「絆づくり」の取組等を行うことで、中学校入学時及び入学後の不登校の未然防止等に効果的と考えられる小中連携の取組のこと。小中連携を通して比較的取組が進んでいる部分と言える。

- 中学校での生活の変化(教科担任制・部活動等)を予告する!
- 進学後への期待を高める!

内容は中学校が主導で提案し、場の設定は小学校が関与する!

## 中1のスタートは12月

前倒し的な取組

# 「最上教育事務所」の主な取組



## 1 ワーキンググループの開催

### 目的

「魅力ある学校づくり」に向けて、希望する学校・市町村教育委員会を対象とし、事業の円滑な推進に向け、悩みを共有したり、課題解決に向けて協議したりするワーキンググループを開催することで、近年増加傾向にある不登校児童生徒の未然防止を図る。

### 内容

#### 【令和元年度】

○第1回(7月29日) 講師：国立教育政策研究所 小野 憲 総括研究官  
「各学校の1期の取組の報告と2期プランの作成のポイント」について  
☆とおきのことではなく、日常的にできることを全教職員で統一して確実にやろう！

○第2回(9月3日) 講師：大阪成蹊短期大学 中野 澄 教授  
「各学校の2期プランの取組の報告とこれまでの取組の振り返り」について  
☆学校全体への浸透度を深めていくには、地道に取り組むことが一番である！

○第3回(1月14日)  
「2期プランの総括と3期の取組の展望及び小学校7年生の取組と中学校0年生の取組の整理と検証」について  
☆新規の不登校を出さないためには、「その他大勢の子ども」に目を向けていこう！

浸透・普及



〈小野 憲 総括研究官〉

#### 【令和2年度】

○第1回(7月28日) 講師：国立教育政策研究所 小野 憲 総括研究官 ※諸事情により中止  
「各学校の1期の取組の報告と2期プランの作成のポイント及び『のりしろ』づくりの検証」について



〈中野 澄 教授〉

○第2回(10月23日) 講師：大阪成蹊短期大学 中野 澄 教授  
「各中学校区で行う『のりしろ』づくりの可能性を考える」  
☆「のりしろ」はリピート！生徒を「ワクワク」「ドキドキ」させよう！

○第3回(1月14日) 講師：国立教育政策研究所 小野 憲 総括研究官  
「3期プランの共有と各中学校区で取り組む『のりしろ』づくりの体験」について  
☆試行錯誤を繰り返し、校区の文化となるものを創出しよう！

## 2 魅力だより及び重要用語一覧(用語集)の発行

### 目的

「魅力ある学校づくり」に向けて、管内の小・中学校等の「居場所づくり」及び「絆づくり」の実践を便りにまとめて周知することで、各学校における今後の不登校児童生徒の未然防止の取組等に生かす。

浸透・普及

### 内容



〈ワーキンググループの報告〉



〈各学校の実践紹介〉



〈重要用語一覧〉





### 3 座談会の開催

**目的** 「魅力ある学校づくり」に向けてモデル校区の担当者等と座談会を開催することで事業の方向性や進捗状況等の確認や密な連携を図ること。

**連携**



#### 内容

##### ○令和元年度(3月25日)

テーマ：「授業づくりを核にした魅力ある学校づくりの推進」  
～不登校の未然防止に向けた小中連携の取組を通して～

参加者：教育委員会：渡辺学校教育指導主幹、小学校：伊豆田生徒指導主任、中学校：矢部生徒指導主事

##### ○令和2年度(11月25日)

テーマ：「生徒と共につくる魅力ある学校づくりの推進」  
～質の高い授業づくりを通して不登校の未然防止を目指す～

参加者：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター：堀センター長、小野総括研究官、教育委員会：渡辺学校教育指導主幹、中学校：大山校長、矢部生徒指導主事



## 「成果」と「今後に向けて」

#### 成果

- ◎「未然防止」「居場所づくり」「絆づくり」に係る意識の高まりや「チーム学校」としての同僚性の築きが不登校児童生徒の新規数の抑制につながった。
- ◎ワーキンググループの開催(各年3回)や魅力だよりの発行等により、管内はもとより県全体への事業の趣旨・効果の浸透及び実践の共有が進んだ。
- ◎本事業の中心として取り組んだ各学校の若手・中堅教師の中には、積極的な参加により集団指導をはじめ、生徒指導等に係る指導力の向上が見られた。

最上地区の不登校児童生徒割合の推移

単位：%		H29	H30	H31・R1	
中学校	不登校生徒の割合	最上	100	85.6	104.9
		国	100	112.3	121.2
中学校	不登校生徒全体に占める新規の割合	最上	100	88.1	97.2
		国	100	109.9	109.1
小学校	不登校児童の割合	最上	100	93.8	96.9
		国	100	129.6	153.7
小学校	不登校児童全体に占める新規の割合	最上	100	73.3	73.3
		国	100	112.1	110.9

※H29を100%として計算

#### 今後に向けて

- 中1ギャップを解消していくためにも、小中連携の充実による「のりしろ」づくりに取り組み、中学校1年生の生徒が「ワクワク」したり居心地の良さを感じたりするような学校・学級にしていく必要がある。
- 学校や市町村の垣根を越えて学校の取組について情報交換する等、児童生徒主体の「絆づくり」の場をより一層充実させていく必要がある。
- 事業委託は終了するが、今後も本事業についてのポイント等に基づいた取組を各学校で実践し、学校文化として継承されることが望まれる。

#### 【参加協力校】 (20小学校・11中学校・1義務教育学校) モデル校／舟形町立舟形中学校

新庄市立新庄小学校・新庄市立沼田小学校・新庄市立日新小学校・新庄市立北辰小学校・新庄市立本合海小学校・新庄市立升形小学校  
金山町立金山小学校・金山町立明安小学校・金山町立有屋小学校・最上町立大堀小学校・最上町立向町小学校・舟形町立舟形小学校  
真室川町立真室川小学校・真室川町立真室川あさひ小学校・真室川町立真室川北部小学校・大蔵村立大蔵小学校・鮭川村立鮭川小学校  
戸沢村立戸沢小学校 【最上町立富沢小学校 最上町立赤倉小学校(H31・R1)】

新庄市立新庄中学校・新庄市立明倫中学校・新庄市立日新中学校・新庄市立八向中学校・金山町立金山中学校・最上町立最上中学校  
舟形町立舟形中学校・真室川町立真室川中学校・大蔵村立大蔵中学校・鮭川村立鮭川中学校・戸沢村立戸沢中学校

新庄市立萩野学園